

## 船舶事故調査報告書

平成23年12月15日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）  
委員 庄 司 邦 昭  
委員 石 川 敏 行

|   |  |
|---|--|
| 事故種類  | 沈没   |
| 発生日時  | 平成23年6月11日（土） 09時00分ごろ   |
| 発生場所  | 京都府舞鶴市博奕岬 <sup>ぼくち</sup> 北方沖<br>博奕岬灯台から真方位005° 6, 100m付近<br>(概位 北緯35° 36.1′ 東経135° 20.9′)  |
| 事故調査の経過   | 平成23年6月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。<br>原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。   |
| 事実情報<br>船種船名、総トン数<br>船舶番号、船舶所有者等<br>L×B×D、船質<br>機関、出力、進水等 | モーターボート <sup>いづむろ</sup> 岩室丸、5トン未満<br>251-1275 京都、個人所有<br>9.68m (Lr) × 2.21m × 0.75m、木<br>ディーゼル機関、154.46kW、昭和47年8月  |
| 乗組員等に関する情報  | 船長 男性 74歳<br>二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定<br>免許登録日 昭和52年1月14日<br>免許証交付日 平成18年12月18日<br>(平成24年5月21日まで有効)  |
| 死傷者等  | 死亡 1人（船長）  |
| 損傷  | 全損（沈没）   |
| 事故の経過   | 本船は、船長が1人で乗り組み、友人4人を乗せ、平成23年6月11日08時00分ごろ舞鶴市舞鶴港を出港し、博奕岬北方沖の釣り場に向けて航行中、08時45分ごろ船首部が沈み始めた。<br>船長は、2番魚倉内を点検しよう同乗者に依頼してハッチを開けさせたところ、2番魚倉内は既に海水が一杯となり、ハッチからあふれそうになっていたため、09時00分ごろ海上保安庁に通報するとともに全員が救命胴衣を着用して沈没に備えた。<br>本船は間もなく沈没し、船長及び同乗者は、クーラーボックスにつかまるなどして漂流中、来援した巡視艇及び自衛艦により、09時42分から10時04分間に全員が救助されたが、病院で船長の死亡が確認された。<br>船長の死因は、溺水による窒息と検案された。 |
| 気象・海象   | 気象：天気 雨、風向 北、風速 約5m/s、気温 約18.6℃<br>海象：波高 約0.5～1m、海水温度 約19℃   |
| その他の事項  | 本船は、操舵室の前方に2個の魚倉があり、1番魚倉は錨、ロープなどの、2番魚倉はその他の道具類の物入れとして使用されていた。  |

|    |   |  |
|----|---|--|
|    | <p>本船は、船質が木であり、外板にFRPをコーティングする改装工事を行っていたが、改装の仕様、時期、造船所等は不明であった。</p> <p>本船は、船長が10年ほど前に購入後、中間検査及び定期検査をそれぞれ2回受けており、最近の平成22年6月16日の定期検査では、指摘事項はなかった。</p> <p>本船は、船長が購入後、釣りのため、主として春や夏に月1～2回運航されていた。</p> <p>本船は、本事故発生当時、時折、波が船首をたたくことがあったものの、浮遊物に衝突したような衝撃はなかった。</p> <p>漂流中の同乗者は、時折、波をかぶって海水を飲むことがあった。</p> |  |
| 分析 | <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>  | <p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、博奕岬北方沖を航行中、魚倉に浸水したことから、沈没したものと考えられるが、浸水に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、本船が、博奕岬北方沖を航行中、魚倉に浸水したため、沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>   |  |